

**平成 29 年度 第 1 回 清瀬市史編さん委員会**  
**議事要旨**

日 時： 平成 29 年 5 月 22 日（月）  
午前 9 時 30 分～11 時 30 分

場 所： 第 2 委員会室（市役所本庁舎 4 階）

出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、谷口康浩、浅倉直美、黒川徳男、齊藤隆雄、  
齊藤靖夫、岡田耕輔、黒田一美、小西一午、中澤弘行（11 名）

欠席委員： 高村聰史、坂間和英（2 名）

事務局： 企画部長、市史編さん室長、市史係 3 名（5 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 資料編・通史編について
3. 普及啓発版について
4. 『市史研究 きよせ』について
5. その他
6. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（平成 29 年度 第 1 回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 資料編・通史編 刊行に向けての検討事項【資料 I】
3. 刊行計画と準備スケジュール【資料 II-1】【資料 II-2】
4. 普及啓発版レイアウトイメージ案【資料 III】
5. 『市史研究 きよせ』第 3 号構成案【資料 IV】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長           ただ今より、平成 29 年度第 1 回清瀬市史編さん委員会を開催します。  
議事に入る前に、事務局より配布資料についてご説明いただきます。

事 務 局           （配布資料について説明）

## 2. 資料編・通史編について

- 委員長       では、議事に移ります。  
                  まず、「資料編・通史編について」です。検討事項について、事務局からご説明いただけますか。
- 事務局       【資料Ⅰ】「通史編・資料編刊行に向けての検討事項」をご覧ください。  
                  この資料は、先の4月13日に行われました部会長会議における検討事項をまとめたものです。  
                  まず、名称につきましては、親しみやすさ、将来の刊行への配慮、現行の市史との区別の必要性等、総合的に検討する必要があることから、『清瀬の歴史』『新 清瀬市史』『新編 清瀬市史』ひらがなを使った『きよせ市史』などの案があがっております。名称につきましては、今年度中に決定していきたいと考えておりますので、今日挙げております名称を参考に、次回の委員会を目途におまとめいただければと考えております。
- 次に、判型、装丁等についてです。判型につきましては、A5ですと考古の資料編には小さすぎ、A4になりますと大きいため持ちにくく、図書館で借りにくい、といった弊害がもたらされますことから、全編 B5 に統一してはどうかという見解が示されました。
- また、文字の向きにつきましては、縦書きは考古資料編になじまず、横書きは通史編になじまない、などの理由から、通史編は縦書きに、資料編は編ごとに検討するという見解が示されました。フォントにつきましては、判型を B5 とするならば、10.5 ポイントがよいとの見解が示されました。カラーについても基本的に使用していくという方向になりました。紙質につきましては、裏に図や写真が透けないものとして、基本的に全編統一した方がよいとの見解が示されました。製本については、並製本では時間の経過とともに痛んでしまうことから、上製本が望ましいとの方向性が示されました。表紙については、上製本の場合は布貼りもしくは紙貼りが望ましいとの見解が示されました。箱については、あると見栄えが良く、保管の際に便利であります。図書館などでは箱は廃棄されてしまうということもありますので、今後検討の余地があるのではないかという見解が示されました。最後にカバーについて、箱がある場合は必要ないが、箱がない場合は必要ではないかとの見解が示されております。
- 続きまして、頁数・部数についてです。頁数については、頁数が多く冊子が厚すぎると重くなり利用しにくくなるという弊害がもたらされます。資料編は全編が同程度の厚さが望ましいとの見解が示されております。

委員 長

そのことから、当初の計画通り、通史編は 1000 ページ程度、資料編は 800 ページ程度を目安に作業を進めていくことにしてはどうか、という方向が示されました。また、具体的な刊行部数につきましては、今後検討して行くとしつつも、編ごとに印刷部数が異なっても構わないのではないかとのご意見を賜りました。説明は以上です。

ありがとうございます。

名称については後でご検討いただきたいと思いますが、判型や頁数については、できれば部会長会議ではこのようにしてもらいたいという合意がなされました。

判型については、すべてを同じ判型にしないと図書館で別の棚に置かれてしまうということもあって、B5 版で統一させていただければと思います。最近、図版が多くなってきていますが、A5 版では図版が小さくなってしまいうということもありますので、B5 版に揃えさせていただきたいと思います。

通史編は縦書き、一般に資料編も縦書きになるかと思いますが、考古では数字が多くなり、縦書きにはなじまず、読みにくいものになってしまうので、それぞれで変わってもよいのではないかと考えます。

判型を B5 版にすれば、文字の大きさも通例 10.5 ポイントとなり、少し大きめの文字にできるので読みやすくなると思います。製本についてですが、並製本というのは、糊で貼ってあるだけなので、頁がとれてしまう恐れがあります。上製本というのは、糸で綴ってある製本方法ですが、長く大切にいくためには、上製本でないと、と考えます。

箱入りにするか、箱なしでカバーにするか、といったことは、これから皆さんのご意見をききながら検討課題としていきたいという話になりました。

通史編は 1000 ページ前後、資料編は 800 ページ前後を考えています。紙が良くなってきて薄い紙でも裏が透けないものがあり、同じ頁数でも本の厚さも薄く仕上がるようになってきています。

この辺りは、もう少し考えてもよいかと思いますが、名称は今年度中に決めなければと考えております。

昨今、ネット検索で本を探すことが多くなっています。ひらがなの「きよせ」は親しみやすく良いのですが、漢字の「清瀬」で検索したときにひらがなの「きよせ」はヒットしないといったことがあります。今後どうなるかわからないところもありますが、考慮すべき点と言えそうです。

また、一度「新」、「新編」をつけてしまうと、例えば 30 年後にもう一度作ることになった時に困るのではないかと、といった指摘もあります。

こうしたことを考慮しつつ、名称は今年度中に決め、判型については今の説明の通り作らせていただきたい、というのが部会長会議で合意を得たところであります。

特に、名称が重要だと思います。これから議論していかなくてはならないのですが、ご意見があればいただけますか。

委員 名称は、重要です。誰が見ても、これはこういうものだ、と内容がわかるものがないと考えます。ですので、しゃれた言い方や、奇をてらったような言い方は避けたほうがよいと思います。

委員長 最近の市町村史の傾向として、「〇〇市史」のほかに「〇〇市の歴史」とか「〇〇の歴史」といった名称が多くなっているようです。特に、一度市史が出た後では、「新」がつくか、「〇〇の歴史」になっているところが多いようです。

委員 ひらがなの「きよせ」は我々がなじんでいるところで、良いと思います。検索の問題も、市内で検索できるのであれば、それでよいと思います。

委員長 市民として、というところと、せっかくですので市史を通して清瀬が全国的に知られるようになってほしい、というところがあります。

委員 私は、さきほどの例のなかでは『清瀬の歴史』がいちばんしっくりきました。何が書いてあるかわかる良いタイトル、名称だと思います。ひらがなも良いと思いましたが、やはり漢字を残してほしいと思います。「清」も「瀬」も一文字ずつ意味があり、サンズイがかさなっているところも好きです。ルビを振るのもどうかと思いますし。

委員長 読めない漢字ではありませんね。

委員 受ける印象は、字体にもよると思います。『所沢市史』の文字などは固すぎず良いと思います。

委員長 以前は市長や書家に書いてもらってそれを背表紙にすることが多かったようですが、活字にしているところもあります。

名称については、次の会議にはいくつか案を出しながら決めていきたいと思えます。今のご意見は参考になると思えます。委員の方々からのご意見を、市史編さん室でおまとめいただく、ということでもよろしいでしょうか。公募ではありませんが、他の方からもご意見があれば、そういったご意見もお伝えいただけたらと思えます。

名称についてはそのようなことでもよろしいでしょうか。

また、装丁については、数年経つとまた新しい傾向も出て来ると思えますので、もう少し近くなってからでもよいと思えます。他についてはこのような形でお認めいただけますでしょうか。

委員 了承。

委員長 ありがとうございます。

それでは、続いて「刊行に向けてのスケジュール他」について、事務局からご説明ください。

事務局 刊行に向けてのスケジュールについては、先般の部会長会議にて、改めて確認が行われたところです。確認事項に基づき、刊行に向けての全体的なスケジュールについて【資料 II-1】に示しております。今年度中に新たな市史の名称を決定、平成 31 年度から順次、古代・中世、近世、現代、考古、近代の資料編を刊行し、平成 36 年度に通史編の刊行を以て事業完了となります。また、部会ごとのスケジュールについては、【資料 II-2】をご覧ください。今後、各部会はこのスケジュールに沿って業務を進めてまいりますので、進捗状況把握の際の参考としてご活用ください。なお、このスケジュールは現時点での予定ですので、細かな部分については進行のなかで変更もありうることをご承知おきください。

委員長 ありがとうございます。【資料 II-1】は平成 26 年に市史編さんが始まって以来のもので、特に変更はありません。そういうなかで、刊行に向けて今どういうことをやっているのかがわかりにくいというご意見をいただきましたので、各部会でどのようなことを始めているのかを図にしたのが【資料 II-2】です。特に一番重要なのが資料の収集と検討で、これは刊行までずっと続かざるを得ないものです。  
何かご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。  
これについてはよろしいでしょうか。

委員 了承。

委員長 ありがとうございます。

### 3. 普及啓発版について

委員長 それでは、次の議題「普及啓発版について」に移ります。事務局からご説明願います。

事務局 昨年度の委員会の折に或る程度の概略を説明しておりますが、お寄せいただいたご意見を反映し、誌面のイメージを改めて【資料 III】にお示ししております。前回は、縦書きでしたが、横書きの方が見やすいということでしたので、直しました。今後、このイメージに沿って事務局を中心に委員のみなさまからご意見をいただきながら進めていきたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

委員長 普及啓発版について、これは基本的に A4 版の大きさになるという理解でよろしいですか。市制 50 周年の記念誌という意味で、清瀬以前の問題、つまり近世以前のことは簡単に済ませ、清瀬という名前ができた以降の

さまざまな問題を写真や図を中心に示して、絵解きをしながら示していくという形で、近代、現代の清瀬に関心を持っていただく、ある意味では、次に出る清瀬市史でもっと詳しく知りたい、と思ってもらう導入部となる位置付け、といった理解でよろしいでしょうか。

- 事務局 判型は A4 版、50 ページ程度の冊子を考えております。
- 委員 質問です。名称は、通史編、資料編、普及啓発版に共通のものでしょうか。それとも別のものになるのでしょうか。
- 委員長 私のイメージでは、普及啓発版は違った名称にしてよいのではないかと考えておりましたが、いかがでしょうか。
- 事務局 委員長のお考えでよろしいかと思えます。意味合いとして市制施行 50 周年の記念誌ですので、普及啓発版につきましては、通史編、資料編という括りとは別に考えております。
- 委員長 他にいかがでしょうか。
- 委員 横書きになったこと、写真を多めにするのは、見やすく、良いと思います。文字も大きめにさせていただくと、より多くの方に見ていただきやすいと思いますので、その点も留意していただきたいです。
- 副市長 形、レイアウトと内容の構成は、これを基に 50 ページ程度で進めたいと思っています。内容については、専門家のご意見も頂戴しながら作成していこうと思っていますが、ひとつひとつこの委員会でお示しして了解を得つつ、ということになると、非常に時間がかかり前になかなか進まないということがありますので、概ねこの内容でよろしければ、或る程度まで市の方で進めていきたいと思っています。或る程度できたところで、委員会にお示ししたいと思っています。
- 委員 普及啓発版では、写真でふり返る清瀬というのが重要なところだと思うのですが、取り上げる 50 のテーマに関して、これから要望を受け付けることは可能ですか。
- 副市長 ご意見があれば、早めに事務局におっしゃっていただければと思います。
- 委員 わかりました。テーマについてお訊ねしたのは、市の広報が撮った写真資料が博物館に膨大な量あるのですが、今示されている構成案で主なものがうまく落とし込めるだろうかと懸念したものですから。後日また確かめたいと思います。
- 委員 テーマの中に農業のことも取り上げられていますが、昭和 40 年代から農作業はそれまでとかなり違ったものになっています。昔の農作業の道具は博物館にはありますけれども、どんどんなくなっていくものです。新しくは作られませんから、なくなったら終わりです。博物館の職員も使い方についての知識を持つ必要があって、きちんと説明できるような情報を集めることが重要です。きちんとした情報という意味では、聞き取

りの内容は、いた場所や年齢によって角度が違うものなので、検証をお願いしたいと思います。

委員長 ご意見ありがとうございます。聞き取り調査を行っている現代部会から、その点についていかがですか。

現代部会長 聞き取りは、話者の主観でお話されるもの、その人の記憶であるということが大前提です。読んだ人がここに書いてあることは違う、という指摘をしてくだされれば、それでどんどん新しい事実がわかっていく、そういうものだと考えています。

委員 村の行事の時期のことなども、知っている人がいなくなると伝えられな  
いままに終わることがあります。古文書は逃げませんが、人はいなくな  
りますから、こういう聞き取り調査は急いでいただきたいものです。

委員長 いろんなご意見があろうかと思imasuので、市史編さん室にお寄せいた  
だければと思います。

事務局 本日、参考資料として、50のテーマ案をお配りしていますが、これから  
進めていくなかで或る程度固まりましたら改めてお示しし、ご意見いた  
だきたいと思imasuので、よろしくお願いいたします。

委員長 歴史ですので、時代の流れが全体にわかるようになっている方がわかり  
やすいかと思imasu。内容としてこれらのテーマを入れるというのはよ  
いと思うのですが、時代を追っての構成のほうがわかりやすいかもしれ  
ません。

委員 年代がはっきりしていたほうがわかりやすいと思imasu。

委員長 意見は事務局で集約していただき、或る程度、形ができたところで一度  
示していただくといったことでよろしいでしょうか。印刷前に示してい  
ただきたいと思imasu。

副市長 校正段階で、と考えています。

委員長 普及啓発版につきまして、いかがでしょうか。今のような方向性で進め  
ていくということによろしいでしょうか。

委員 了承。

委員長 ありがとうございます。それでは事務局、たいへんですがよろしくお願  
いします。

#### 4. 『市史研究 きよせ』について

委員長 では、次に『市史研究 きよせ』について」です。事務局からご説明お  
願ひします。

事務局 委員のみなさまのお手元には既にお届けしておりますが、第2号が完成  
しました。6月から市役所1階受付と郷土博物館にて、第1号同様1冊

300 円で販売を開始したいと考えておりますので、多くの方にご案内くださいますようお願いいたします。

次に第 3 号に向けて、現時点で予定しております冊子の構成案をご案内いたします。**【資料 IV】**をご覧ください。

基本的に第 2 号と同様ですが、第 3 号からの新しい企画として「清瀬ゆかりの人たち」という歴史人物紹介の項目を設けまして、団体委員、公募委員を中心に執筆をお願いできればと考えています。構成案につきまして以上です。

委員長 市史研究の 2 号はお手元にある通りですが、3 号について、少しずつ構成を変えたり、市民の皆さまに興味深く見ていただきたいということで、新しく、清瀬ゆかりの人物を 1 号につき 2 名ずつ紹介していったらどうかと考えました。1 人分見開き 2 ページで、写真、紹介文を 500 字程度、それに出典や参考文献を詳しく提示することで、もっと詳しく知りたい場合にはそちらを見てくださいますように、手引きになるようなものにできたら、というのが新しい企画です。その他は従来形で、市史で行っているさまざまな調査について報告して、市民の方たちに知っていただくという形です。ご意見、ご質問いかがでしょうか。

委員 2 号を読みました。1 号より内容が充実して良いと思えました。ひとつ伺いたいのは、専門調査員でない方からの寄稿が載っていますが、これはどういう経緯からでしょうか。

古代・中世部会長 ご指摘ありがとうございます。古代・中世部会の調査報告についてのご指摘ですが、今まで知られていなかった史料が、清瀬の調査のなかで見つかったので、掲載させていただきました。今回の調査は、埼玉県立文書館の学芸員の方を通じて飯能市の平沼家に依頼し実施したもので、その中で新しい史料を発見するに至ったものです。その経緯から、専門的にも今回新出の文書の内容に精通している埼玉県立文書館の学芸員の方にお書きいただいて、古代・中世部会長の責任で掲載いたしました。飯能市も所蔵者もご了解のうえで、書いていただいたものです。かつ、埼玉県立文書館の学芸員の方のご尽力で平沼さんのお宅に清瀬の調査が入ったこともひとつの要因として、平沼家の史料が全て、千葉県佐倉市にあります国立歴史民俗資料館に一括してコレクションとして入ることになりまして、そういった意味でも、『市史研究 きよせ』にこの史料を出すことを了解していただいたという経緯です。

委員長 他の部会でもありうることで、我々にはできない部分を外部の方に関わっていただくということについて、ここでご了解いただけたらと思います。

委員 問題ないと思います。市史ができる過程での経過を皆さんにお知らせす



る役目があります。そこで部会ではこういう活動をし、こういう発見に関してもかかわりがありましたということが分かれば、調査が順調に進んでいることが評価できるので、大いにけっこうなことだと思います。中身については部会長が判断すれば問題ないことだと考えます。大いにやっていただきたいと思います。

委員 委員の知らないところで関係者以外の方が書くということに抵抗があります。少なくとも委員には一言いただきたいと思います。

委員 著者紹介を入れたらどうでしょうか。

古代・中世部会長 専門調査員については、その肩書を記載すればよろしいと思います。また、学術的な部分に関して誰に執筆してもらうかについて、部会長の判断で進めてよいのか、それともそれを委員会に諮らなくてはならないのか、この点はいかがでしょうか。委員会の了承が必要となると、年度の報告を年度末までに行うというスケジュールを考えると厳しいところがあります。

副市長 専門家の委員の方々にはその専門性を信頼申し上げて委員に任命させていただき部会長になっていただいていますので、部会長のご判断にお任せするという事でよいと、市としては考えます。

事務局 専門調査員の方々につきましては、市の方で把握の上、市長が委嘱しております。その旨ご理解いただきたいと思います。

委員長 各部会がいろいろな研究者と関係を持ちながら、そのことによっていろいろな情報を得たり、協力を得たりすることがあるので、部会長の責任で書いていただくということはお許しいただければと思います。そうでないと、なかなか良い情報が集まらないものです。

委員 略歴があればわかりやすいというところはあるかもしれませんが、勝手に書くわけにはいかず、ご本人に確認する必要があります。そうした手間もあり、そのことで動きが鈍くなるようでしたら、なくてよいと思います。

委員長 遠慮深い方もあれば、もっと書いてほしいという方もあり、略歴の書き方には調整が難しいところがあります。

委員 部会長にお任せでよいと考えます。委員に紹介した方がよい方があれば、委員会などで一言ご紹介いただければそれでよいと思います。先生方のやりやすいように進めていただければと思います。

委員長 よろしいでしょうか。

委員 了承。

## 5. その他

委員 長                    それでは、次第 5「その他」に移ります。今年度の啓発事業について、事務局からお願いします。

事 務 局                    昨年度、市史講演会を根岸先生にお願いしましたところ、休日の午前中にもかかわらず多くの方にご参加いただき、大好評でした。参加された方々の声を参考にさせていただき、今年度も同様に実施していきたいと考えております。

今年度の啓発事業について、調査研究が一番進んでいる古代・中世部会にお願いしてはどうかと考えております。日程や内容については、これから詰めて参ります。

委 員 長                    ありがとうございます。啓発事業についてよろしいでしょうか。

委                    員                    了承。

## 5. 閉 会

委 員 長                    他に何かありますでしょうか。

ないようでしたら、これで平成 29 年度第 1 回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。

## 通史編・資料編刊行に向けての検討事項

	検討事項	備考
① 名称	名称	親しみやすさ 将来の刊行への配慮 現行との区別 「きよせ」は図書館で「清瀬」で検索するとヒットしない
② 判型・装丁等	判型 ⇒全編 B5 に揃える	A5 は考古の資料編に小さく、A4 は持ちにくく、借りにくい 判型を揃えないと図書館などで編によって別の棚に配架されるおそれ
	文字の向き ⇒通史編 … 縦書き 資料編 … 編毎に検討	縦書き 考古編に馴染まない 横書き 通史が横書きということはまずない
	フォント ⇒書体・サイズは統一	書体は明朝体が好ましい B5 は 10.5 ポイントが一般的
	カラー ⇒使用する前提	
	紙質	裏に図や写真が透けないものがよい 全編で統一した方がよい
	製本方法	上製本が好ましい 並製本（無線綴じ・中綴じ）は、へたっぺしきやすい
	表紙	上製本の場合は布張りもしくは紙張り
	箱	箱があると、見栄えが良く保管の際に便利だが、図書館では箱は廃棄される
	カバー	箱入りならば不要、箱無しの際は必要か
③ 頁数・部数	頁数	平成 27 年度第 1 回委員会の想定は通史編 1,000 頁、資料編 800 頁 分厚すぎると重く、利用しにくい 資料編は全編が同程度の厚さが好ましい
	部数	編毎に印刷部数が異なっても構わないのではないか 前回の市史が 2,000 部 『市史研究 きよせ』は 500 部

刊行計画と準備スケジュール(平成29年度 編さん委員会)

H29.5.22

市制50周年

年度

	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	H35 2023	H36 2024
<b>【資料編】</b>											
				名称決定 (委員会)  各部会共通事項 確認(部会長会)							
考古				考古				目次確定/入稿	○刊行		
古代・中世				古代・中世	目次確定/入稿	○刊行					
近世				近世		目次確定/入稿	○刊行				
近代				近代					目次確定/入稿	○刊行	
現代				現代			目次確定/入稿	○刊行			

\* 刊行に向けてのスケジュール詳細は別紙

<b>【通史編】</b>											○刊行
				名称決定 (委員会)  各部会共通事項 確認(部会長会)			執筆項目検討 (頁分け・章立て検討)  用語等要項検討	執筆	入稿了	編集 (調整・校正)	

<b>【その他】</b>											
普及啓発版								○刊行			

市史研究	—	○1号	○2号	○3号	○4号	○5号	○6号	○7号	○8号	○9号	○10号
------	---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

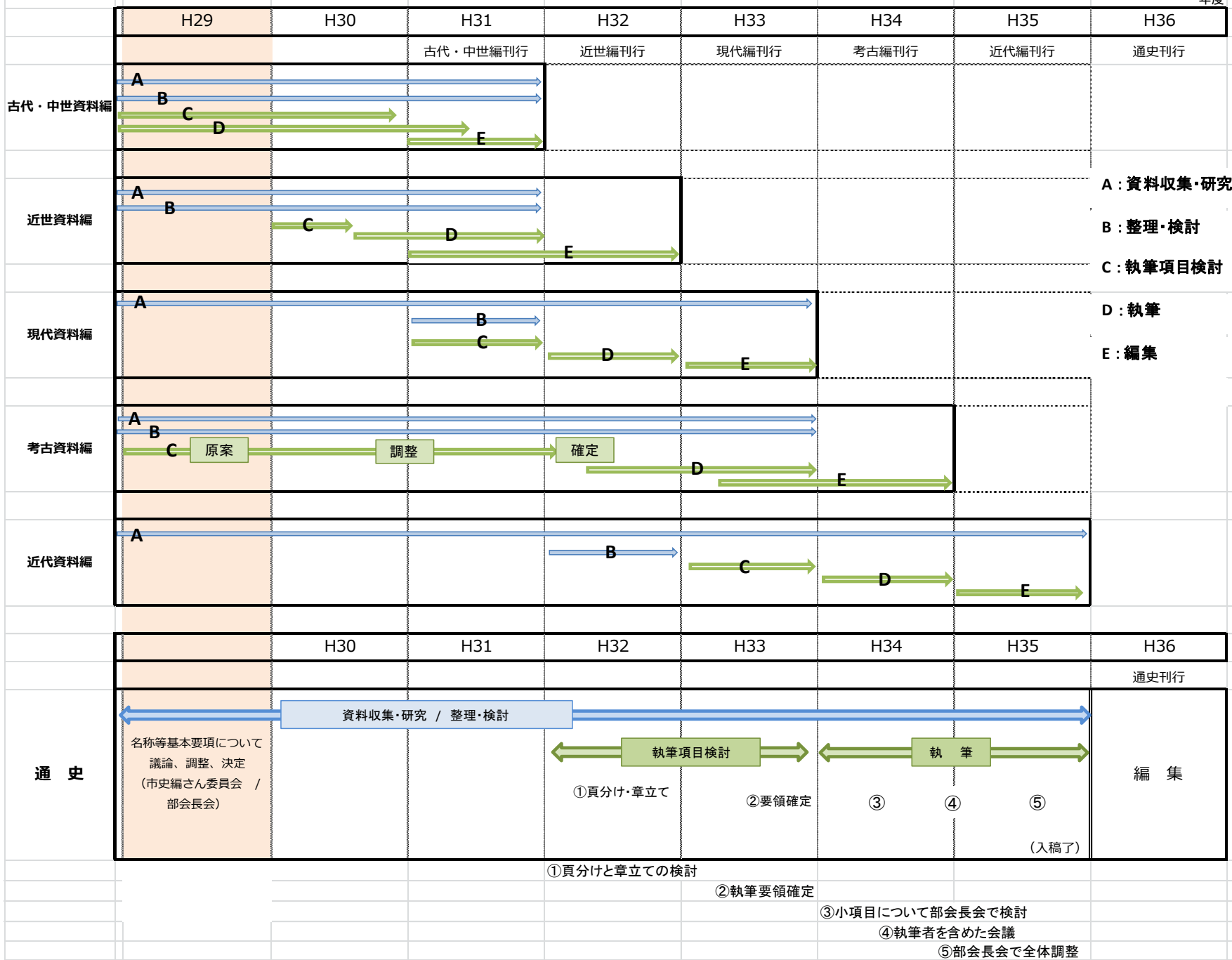
事務局で構成案→委員会で検討・承認

部会報告：各部会に執筆依頼

編集：事務局

刊行に向けてのスケジュール

H29.5.22  
年度



A : 資料収集・研究

B : 整理・検討

C : 執筆項目検討

D : 執筆

E : 編集

『市史研究 きよせ』第3号 構成案

総ページ数 80 p (第2号同様)

<巻頭カラー> (頁数外)

◇資料写真

◇写真館

\*目次 (1 p)

◇古代・中世部会調査報告 (20 p)

◇聞き取り調査報告 (近代部会・現代部会) (30 p)

◇講演会報告 (2 p)

◇専門部会調査報告 (2 p × 5 部会 = 10 p)

◇【新】清瀬ゆかりの人たち (人物紹介) (2 p × 2 名分 = 4 p)

人物1名分 (写真 + 紹介文 (500 字) + 出典・参考文献) × 2

◇覚え書き (11 p)

基本方針 4 p / 編さん委員会開催状況 2 p / 市史で候タイトル一覧 3 p / 関係者名簿 2 p

\*資料提供のおねがい (こんな資料をお持ちではありませんか) (1 p)

\*編集後記・書誌 (1 p)

---